

## セネガル・スーフィー教団における女性の台頭： ズィクル朗唱に着目して

人間・環境学研究科 修士課程 2年

星野 佐和

セネガル

2018年7月27日～2018年10月3日

### 計画の概要

西アフリカ・セネガル共和国は、国民の95パーセント以上がイスラーム信徒であり、そのほとんどがイスラームの神秘主義といわれるスーフィー教団に属している。スーフィー教団においては、神との合一体験を目指す修行のひとつとして、神の名に旋律をつけて繰り返し唱えるズィクルと呼ばれる朗唱が盛んに行われる。イスラームにおいては教義上、女性は人前で大声を出すべきではないとされるにもかかわらず、セネガルのスーフィー教団においては、人前で声を上げて朗唱する女性が増えている。また、朗唱技能の優れた女性が信徒たちに支持され、本来男性であるべき宗教指導者のような影響力を持つという現象も見られる。しかし、ニアセン教団における女性の台頭に着目した研究の中でヒルは、これは女性が男性宗教指導者と同等の影響力を持ったということではなく、依然として男性中心の宗教的な活動からは部分的に除外されていることを指摘し、女性の主体性のあり方が重層的であることを指摘している[Hill 2010]。本研究では、先行研究で中心に取り上げられてこなかった、宗教的な活動の一部である朗唱に着目し、女性が活発に朗唱することが女性の主体性のあり方とどのように関連しているのかを明らかにすることが当初の計画であった。

### 参考文献

Hill, Joseph. 2010. 'All Women are Guides': Sufi Leadership and Womanhood among Taalibe Baay in Senegal. *Journal of Religion in Africa*. 40(2010)375-412. Brill NV.

### 成果

本調査では、セネガルに存在するイスラーム・スーフィー教団のうち、ニアセン教団とライエン教団を中心に調査を行った。主な調査方法は、各教団信徒への聞き取り調査及び、ズィクルの実践が行われる宗教的な集会への参与観察である。本調査における主な成果を以下にまとめる。

## 1. 教団ごとの解釈の差異

女性が声を上げてズィクルをすることをめぐっての解釈は、教団ごとに差異があることが明らかになった。ライエン教団では、開祖であるリマーム・ライは、預言者ムハンマドが黒人として現われた姿であると言われており、他教団と比較しても独特の信仰体系を有している。また、女性の指導者も以前から存在していたと言われている。本調査でも、女性がズィクルをすることへの忌避感は特に見受けられなかった。一方のニアセン教団では、特に男性宗教指導者や信徒へのインタビューから、「女性は声を上げてズィクルをするべきではないが、神に言及する場合のみ許容される。」という語りが得られ、一定の忌避感があることが明らかになった。

## 2. 女性宗教指導者と「女性歌手」の差異

先行研究では、ニアセン教団における女性宗教指導者の台頭が指摘されていたが、なかなか彼女らに会うことができず、調査は難航した。調査も終盤に差し掛かった頃、ズィクルの技能の高い「女性歌手」（ズィクルはイスラームの解釈上「歌」ではないとされるが、現地ではズィクルの技能の高い者は「歌手」と表現されていた。）と、宗教指導者であるその母に会い、調査を行うことができた。女性宗教指導者に関しては、「宗教的な知識を持った女性は男性とみなされる」という解釈が与えられるのに対し、「女性歌手」に対してそのような解釈が与えられることはなかった。また、ズィクルが行われる宗教的な集会では、通常男性と女性の空間は区別されており、女性宗教指導者であっても男性の空間に立ち入ることはなかったが、「女性歌手」は男性の輪の中に入り、声高らかにズィクルをする。実践の場における両者をめぐる解釈の違いや立場の違いが明らかになった。

## 3. 今後の課題

本調査では、概ね当初の計画を遂行することができたものの、女性宗教指導者や「女性歌手」が今後も増えていくのか否か、またそれらをめぐる解釈はどのように変化していくのか、などを明らかにし、総体的に把握するため、更に長期的な調査が必要である。今後も同じテーマで研究を続けたい。また、本調査で得られたデータをもとに、修士論文執筆を行う。

